

出雲市中小企業景況調査結果（平田商工会議所管内）

今 期（2011年1－3月）の 概 要

調査期間 平成23年4月1日～4月15日

対象企業 調査対象企業数30社 回答率29社（回答率 96.7%）
内訳：建設業4社、製造業6社、卸売業2社、小売業9社、サービス業8社

概 況

○全業種の今期業況DIをみると、前期比で $\Delta 42.3$ （前期調査 $\Delta 10.7$ ）、前年同期比でも $\Delta 55.6$ （前期調査 $\Delta 25.0$ ）と、ともにマイナス幅が大幅に拡大しています。来期業況見通しDIは、今期比でも $\Delta 55.6$ （前期調査 $\Delta 40.7$ ）とマイナス幅が拡大しています。

○全業種の今期売上DIは、前期比で $\Delta 63.0$ （前期調査 $\Delta 14.8$ ）とマイナス幅が大幅に拡大しています。前年同期比でも $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 35.7$ ）とマイナス幅が僅かに拡大しています。来期売上見通しDIも今期比で $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 42.3$ ）とマイナス幅が拡大しています。

業種別景況調査の主要DI

1、建設業

・今期業況DIが、前期比で0.0（前期調査0.0）と変化はありませんでしたが、前年同期比では $\Delta 25.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）とマイナス幅が半減しています。また、今期売上DIは前期比で0.0（前期調査0.0）、前年同期比でも $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）でともに変化なしとなっています。

- ・来期業況見通し DI は、今期比で $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 75.0$ ）とマイナス幅が縮小していますが、売上見通し DI は $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）と横ばい推移しています。

2、製造業

- ・今期業況 DI が、前期比で $\Delta 33.3$ （前期調査 20.0）、前年同期比では $\Delta 16.7$ （前期調査 20.0）とプラスからマイナスに転じました。また、売上 DI でも前期比で $\Delta 66.7$ （前期調査 20.0）、前年同期比では $\Delta 16.7$ （前期調査 0.0）とマイナスに転じ、僅かながら回復が見られた前期調査から一転して再び低迷しています。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で $\Delta 66.7$ （前期調査 0.0）、売上見通し DI では今期比で $\Delta 66.7$ （前期調査 $\Delta 20.0$ ）と大幅な減少を予測しています。

3、卸売業

- ・今期業況 DI が、前期比で 0.0（前期調査 0.0）と同水準でしたが、前年同期比では $\Delta 100.0$ （前期調査 0.0）とマイナス幅が大きく拡大しました。売上 DI では、前期比で $\Delta 100.0$ （ $\Delta 100.0$ ）と変化はありませんでしたが、前年同期比では 100.0 （前期調査 0.0）とプラス幅を大きく拡大しています。
- ・来期業況見通し DI は、今期比では $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 100.0$ ）、売上見通し DI では今期比で 0.0（前期調査 $\Delta 50.0$ ）とマイナス幅を縮小するなど、需要の停滞や受注の減少による業況の悪化が和らぐことを見込んでいます。

4、小売業

- ・今期業況 DI が、前期比で $\Delta 75.0$ （前期調査 $\Delta 44.4$ ）、前年同期比でも $\Delta 77.8$ （前期調査 $\Delta 66.7$ ）とマイナス幅が拡大しています。売上 DI は、前期比で $\Delta 87.5$ （前期調査 $\Delta 55.6$ ）、前年同期比では $\Delta 77.8$ （前期調査 $\Delta 77.8$ ）とマイナス幅が高い水準で推移しています。恒常的な需要の減少に加え、地震の影響による欠品や高額品の不調もあり売上が減少しています。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で $\Delta 37.5$ （前期調査 $\Delta 37.5$ ）と同水準であり、売上見通し DI では $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 42.9$ ）とマイナス幅がやや拡大しています。

5、サービス業

- ・ 今期業況 DI が、前期比で△42.9（前期調査0.0）、前年同期比では△71.4（前期調査0.0）と大きくマイナスに転じています。売上 DI は前期比で△62.5（前期調査12.5）、前年同期比でも△62.5（前期調査△12.5）とマイナス幅が大きく拡大しています。依然として経営環境は厳しく、前回の改善傾向から反転悪化しています。
- ・ 来期業況見通し DI は、今期比で△71.4（前期調査△37.5）、売上見通し DI でも今期比で△62.5（前期調査△50.0）とマイナス幅が拡大しています。今後もさらに厳しさが増すことを予測しています。

設備投資動向

1、今期設備投資

全業種 設備投資を実施した事業所の割合は14.3%（前期調査21.9%）で、「建物」「機械・備品」への投資が同率で並んでいます。

建設業 実施割合が0.0%で、投資なしとなっています。

製造業 実施割合が33.3%で、「建物」「機械・備品」が同率で並んでいます。

卸売業 実施割合が0.0%で、投資なしとなっています。

小売業 実施割合が0.0%で、投資なしとなっています。

サービス業 実施割合が25.0%で、「建物」「機械・備品」が同率で並んでいます。

2、来期設備投資

全業種	設備投資を計画している事業所の割合は20.7%（前期調査22.2%）で、「機械・備品」への投資が33.3%となっています。
建設業	設備投資を計画している割合が0.0%で、投資なしとしています。
製造業	設備投資を計画している割合が33.3%で、「機械・備品」「付帯施設」が同率で並んでいます。
卸売業	設備投資を計画している割合が0.0%で、投資なしとしています。
小売業	設備投資を計画している割合が12.5%で、すべて「OA機器」となっています。
サービス業	設備投資を計画している割合が33.3%で、「土地」「建物」「機械・備品」が同率で並んでいます。

経営上の問題点

全業種	第1位は「需要の停滞、受注減少」が66.7%と、6割を超えています。第2位は「単価の低下・上昇難」「店舗・機械・備品等設備の老朽化」が同率で並んでいます。
建設業	第1位が「需要の停滞、受注減少」で、100.0%を占めています。
製造業	第1位が「需要の停滞、受注減少」で66.7%と、6割以上となっています。
卸売業	第1位が「需要の停滞、受注減少」で、100.0%を占めています。
小売業	第1位が「需要の停滞、受注減少」で60.0%と6割を超えています。

サービス業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で50.0%となっています。

注：DI（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から、「減少」・「悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

詳細は業種別景況を参照してください。